

照葉樹林だより

ISSN 1880-8794

てるはの森の会 会報第 22 号
2010 年 6 月 25 日



イヌシデの若葉 春から初夏にかけて綾の森ではさまざまな植物が芽吹くのに出会う。5 月、綾南県道わきで見かけた、陽光に映えるイヌシデの若葉。 撮影 坂元守雄

《 目 次 》

- ★ 郷田實没後 10 年 記念シンポジウム開催
- ★ 照葉樹林研究フォーラム開催にあたり
- ★ 中国雲南省・ブータンの宗教的行事についての覚書
- ★ 粹なまち 東京神楽坂視察
- ★ 綾町上畑 人と自然のふれあいマップ体験ツアー
- ★ 事務局だより

発行：てるはの森の会

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島 2 丁目 9-6

みやざき NPO ハウス 403 号

TEL 0985-35-7288 / FAX0985-35-7289

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp

URL: <http://www.teruhanomori.com>

郷田實没後 10年 記念シンポジウム開催

会員 小川 渉

「綾の照葉樹林プロジェクト」の源流は、郷田實前町長が、1967年に照葉樹林伐採計画を阻止したことと言えるでしょう。この照葉樹林を核に綾の町づくりに貢献した郷田さんを語り継ぐと2006年の命日に『照葉忌（しょうようき）』を開催し、以降毎年実施してきました。2010年は没後10年の節目ということで、拡大版となりました。内容は新聞記事を参照下さい。

宮崎日日新聞
2010年3月22日付

自然保護の志 後世に

郷田元町長 手腕振り返る

綾でシンポ

綾町発展の礎を築いた元町長で、同町名誉町民の故郷田實さんの没後10年記念シンポジウム「語り継がれる結いの心」は21日、同町公民館文化ホールであった。町内外から約250人が参加。「夜逃げの町」と呼ばれた綾を年間100万人が訪れる観光地に再生した手腕を振り返り、志を後世へと引き継いでいくことを誓っていた。

同町や地元住民らでつくる同シンポ実行委の主催。1966（昭和41）年から6期にわたり町長を務めた郷田さんは、照葉樹林の保護や有機農業の推進、自治公民館制度の導入など先進的なまじりぐりを展開。2000年3月21日に死去後も、綾に学ぶ自治体や団体が絶えないことから、10年の節目に、命日に合わせて開催した。

実行委員長の前田權町長が「郷田町長はまじりぐりの素晴らしい種をまき、苗を植えてくれた。これからもその遺徳をしっかりと受け継いでいこう」とあいさつ。92年に横浜市で行った郷田さんの生前の講演を上映した。

「まじりぐりとは近未来を見据えた競争。10年、20年、30年先のトレンドを見極め、それが世のトップになれば、綾は日本のトップを走る町になる」と、郷田さんの存在の大きさを語った。

パネルディスカッションでは5人が登壇。綾町照葉樹林文化推進専門監の河野耕三さん（62）は「昔は自然保護を訴える町長はいなかった。先見性のある人だった」、綾に工房を構える、国の現代の名工でガラス工芸作家の黒木国昭さん（64）は「郷田さんの『本物とは自分の良心に問うて恥ずかしくないもの』という言葉が、今も自分の創作の大きな力になっている」とそれぞれ郷田さんの存在の大きさを語った。



郷田さんの思い出や自身が受けた影響について話すパネルディスカッションは、21日午後、綾町・同町公民館文化ホール

後日、実行委員の反省会で私案として次のような構想を表明しました。

『郷田賞』を、2018年の生誕100年記念行事を目途に新設する。

具体的には今後議論を重ねることになるでしょうが、地方自治の専門家を中心とした選考委員会、自然や文化を軸に地域興しを実践した団体・個人を顕彰するというイメージです。

ヒントになったのは、日本自然保護協会が設けている『沼田眞賞』でした。

（おがわわたる・綾町）

照葉樹林研究フォーラム開催にあたり

てるはの森の会 代表 上野登

5月22日開催に向けて、精力的に計画を練り上げてきていた「照葉樹林サミット」は、口蹄疫の拡大のために延期ということになった。断腸の想いで延期を決めたのは、開催日の3日前で、すでに中国雲南省とブータンの招待者は日本に到着していた。21日に開く照葉樹林研究フォーラムは、「てるはの森の会」が上畑公民館と自主的に開く計画であったので、開催することになった。このフォーラムは予定通りに開催され、その状況は次頁にゆずり、私の印象を綴ってみたい。

金さんは、ペー（白）族の絞り染めの報告をした。それも周城の染色業の報告だった。私は、1986年に「照葉樹林文化を考える会」の有志と雲南省を訪れた際、周城の藍染工房を見学した。その時の周城と、パワーポイントで浮き出た周城の姿の差に驚いた。当時の田舎の染工業は、国の文化財に指定され、来賓館も備えた観光都市になっていた。中国の成長の速さが、内陸部にも及んでいると感じた。

魯さんが示した雲南省の照葉樹林分布の写真は、やはり一介の旅人の目に及ばない地域の紹介であった。私に関心をもったのは、野草類の食文化であった。日本の山菜料理と同じように、イ族の野草食文化には共通性がみられた。とくに、イ族は赤い花しか食べないという棲み分けの花食文化には驚かされた。栽培植物の食文化の下層に、共通の食文化があることの大切さを感じた。

ブータンのペマワンダさんの報告に関心をもったのは、ブータンが地帯別に高山地帯、中間乾燥地の人間生活空間、南縁の「緑の回廊空間」として、大切に保存、利用されていることであった。とくに鶴の留鳥期の保護と拡大への気遣いは、生物多様性への政策として教えられた。その背景に仏教があることにも感心した。

月脚祐子さんの竹細工の話、子供の頃の夏のザル型おひつとの共通性を思い出しながら聞いた。竹は、バン格拉デシュも含む、アジア特有の植物で、その文化を再考してみようと考えた。

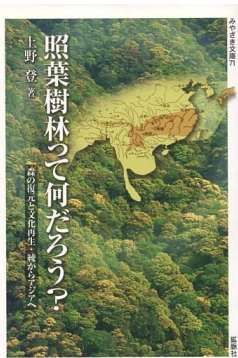
短時間のフォーラムであったが、上畑婦人会の地産馳走の夕べで、意気が上がった。森林相の連帯だけでなく、その相の共通性の上の文化の共通性、その認識の大切さを感じさせたフォーラムであった。来年度は、さらに深い検討をして、森林の大切さだけでなく、住む人たちの生活や習慣の違いを認めあいながら、共通する人間としての繋がりを認めあうサミットにしたいなと考えた。



挨拶する上野代表

(うえののぼる・宮崎市)

《本の紹介》



『照葉樹林って何だろう？～森の復元と文化再生・綾からアジアへ～』

上野登著 みやざき文庫 定価1400円 鈺脈社発行

本書は、「国際照葉樹林サミット」開催を記念して2010年5月21日に出版された。

「綾の照葉樹林プロジェクト」誕生の契機となった前著『再生・照葉樹林回廊』の続編として、その後のプロジェクトの動きをたどり、サミット開催目的の「綾と日本とアジアをつなぐ」というネットワーク構想を生み出すまでの経過が平易にまとめられている。本書に著された場面で共に活動した、という臨場感を持ちながら読み進めることが出来るであろう。

(事務局 記)

照葉樹林研究フォーラムを聞いて 中国雲南省・ブータンの宗教的行事についての覚書

～5月21日(金) 綾町上畑自治公民館～

兵庫県立大学環境人間学部教授 岡田真美子

生物多様性の日5月22日に合わせて開催が予定されていた国際照葉樹林サミットは、宮崎県北東部で発生した口蹄疫による非常事態宣言を受けて延期となった。

しかし、サミット前日に企画されていた研究フォーラムは、NPO 主催ということで決行された。参加者は少し減ったが密なコミュニケーションが可能になり、照葉樹林研究ネットワークの構築には大変有益であった。サミットの開催が早期に実現するよう祈っている。



参加者集合写真



講師の方々
(左から) 金氏、魯氏、ペマ氏、月脚

開会挨拶

前田穰氏 (綾町長)

かつて国土の半分を覆っていた照葉樹林。現在は1.6%しか残っていない。「鳥隠れの季節(椎葉くに子さん談)」となった。もう少し前は雀隠れの季節。葉が茂るに従って変わる季節の呼び名に自然が反映されている。

① 「ペー族の絞り染め」

金少萍 チン・シャウピン氏

(雲南大学西南辺疆少数民族研究センター)

スライド中、龍泉寺があり、雨乞いの龍踊りがあった。白(ペー)族の特徴的な宗教として、村の守り神である「本主廟(ほんしゅびょう)」「(赤馬白馬が門の両側に仁王のようにいる)を挙げていた。

金先生は「白族」を「ペー族」とは言わず「パイ族」と言っていた。



雨乞いの龍踊り

② 「中国雲南省における照葉樹林帯の植物及びその利用」

魯元学氏(中国科学院昆明植物研究所)

雲南省の少数民族一般に関する解説のあと、主に白(ペー)族と彝(イ)族の食に関する話であった。雲南省と日本の共通性は照葉樹林農耕文化である。照葉樹林に代表される植物として、カシ・シイ・タブ・クス・ツバキが挙げられる。

雲南省では烏頭(トリカブト)を食べる。料理方法としては、鍋のふたを開けて24時間煮て、鳥肉とともに煮て食べる。年に1度食べると風邪をひかないと言われている。但し食べた日は外に出ないことだ。そこで風邪をひくと死んでしまう。



雲南省 地図

紫蘇(シソ)は今は食べない。薬として用いている。

白族は白い花を食べ、彝族は赤い花を食べる。粗柄杜鵑(ツツジの1種で白い花)は、白族が食べる。白族は白い花は何でも食べるそうだ。映山紅(ツツジの1種で赤い花)という花は、おしべとめしべを取って、塩水につけ苦みをとって炒めて食べる。

彝族は白い花は食べない。赤い花を食べる習慣があり、例えば四季海棠(ベゴニア)は酸っぱくて美味しいそうだ。石榴花(ザクロ)はめしべを取って煮て食べる。雲南山葵(わさび)も白い花で、豚の餌になる。

最後に、高速道路建設で植生保存ができなくなっている、という話もされていた。

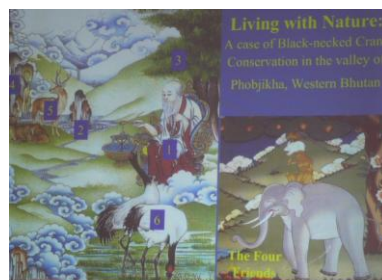
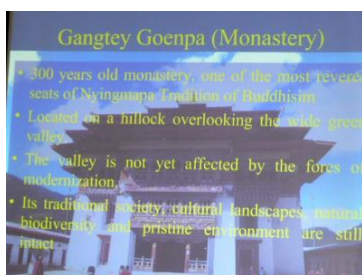
③ 「Living with Nature : A case of Black-necked Crane Conservation in the Valley (自然との共生～ブータン西部のフォブジカ渓谷におけるオグロヅル保護の例)」

ペマワンダ氏(ブータン農業省再生可能自然資源リサーチセンター)

環境宗教学的な発言が多かった。ブータンの森林が守られているのは、仏教の不殺生の教えのためもある。鶴は天国から来た鳥だという信仰があって鶴は守られてきた。



この湿原から飛び立つ鶴が必ず旋回する場所に立っている寺



ペマ氏が示した寺院にある6つの長寿シンボルと4つの共生する動物の絵(注)

④ 「照葉樹林文化の中の竹細工」

月脚(つきあし) 祐子(綾町在住)

竹の素材の素晴らしさとして、切ったほうが元気に育つこと、持続可能な素材であることが挙げられる。また、捨てる場所がないので、使用してもゴミが出ない。チップにして発酵させることで、堆肥としても使用できる。

照葉樹林文化に竹はつきものである。その例として、ブータンの竹で編んだかご(左)と南九州の儀礼食を入れる籠(右)の類似を示した。



ブータンの竹で編んだかご(左)と南九州の儀礼食を入れる籠(右)

閉会挨拶

上野登氏 (てるはの森の会 代表)



懇親会

婦人部の方々が地産地消の手料理でもてなしてくださった。どれも大変美味であった。多謝。



ひよっこ踊り

公民館婦人部会の皆様からのご馳走

(おかだまみこ・岡山県瀬戸市)(責任編集 下村:事務局)

(注1) 後者はもともと Jātaka37 TITTIRA にある、三畜評樹で、シャコ鳥、サル、ゾウがそれぞれ誰が一番年長者として敬われるべきかという話に基づいている。チベット仏教ではなぜかこれにウサギが加わり、四獣因縁(しじゅういんねん)、親睦四瑞(しんぼくしずい)として仲良く生きる4つの獣ということになった。

粋なまち 東京神楽坂視察

～2月12日(金)・13日(土)～

地域づくりワーキンググループ

2年にわたり、綾の森の復元作業に東京から参加されている「NPO法人 木の家だいすきの会」東京事務所長、鈴木俊治さんは、事務所のある東京神楽坂で、古い街並みを守る活動をされています。その鈴木さんから、地域づくりワーキングの皆さんに招待状が届きました。

「守る対象は、森と街と異なっても、目指すことや、困っていることは同じはず。いつも多くの人を受け入れている綾町の皆さん。今度は他の街を見に来ませんか。きっと、何かヒントをもらえるはずです。」

花街特有の路地と坂沿いの商店街を守りながら、地域活性化に取り組む「東京神楽坂粋なまちづくり倶楽部」。綾町の照葉樹林復元作業に東京から参加した「NPO法人 木の家だいすきの会」の森と都市の交流研究会。廃校になった四谷第四小学校を利用した「東京おもちゃ美術館」の3ヶ所を地域づくりワーキング委員10人と、1泊2日の日程で視察して来ました。

毘沙門天



「NPO粋なまちづくり倶楽部」と意見交換



1日目

- 毘沙門天でガイドの鈴木さんと待ち合わせ後、神楽坂 散策
- 「NPO 粋なまちづくり倶楽部」の皆さんと意見交換会。
- 宮崎県東京事務所の会議室に場所を移し、綾の体験ツアーに参加された皆さんと研究会。
- 交流会（夕食）

2日目

- 「東京おもちゃ美術館」視察
木の温もりを感じた。



東京おもちゃ美術館内、木のプール

<http://goodtoy.org/ttm/>

「森と都市の交流研究会」の様子

～「森と都市の交流研究会」研究会での意見(抜粋) 木の家だいすきの会代表 鈴木進氏～

関係をつぐむということが大切だ。今まで持っていた関係を大事にしなが、新しい関係をオープンに作るということ。都市と森の交流には、いろいろな可能性あり、継続的なビジネスにつながることもあると思う。集落の人たちが考えていることと企業の考えていることが違うので、一回のイベントならできるだろうが、継続するなら良く知り合うことが大切。継続するための次のステップをどうするか？企業は従業員のコミュニケーション、地域貢献、福利厚生などの点に興味を持っている。一方で、地元は受け入れられるのか？体制は作れるか？まず1回やってみる、そして次をやるという進め方が良いと考えている。ビジネス半分+リフレッシュ半分というバランスが良いのではないか。企業と集落の共通の接点を見つけていきたい。

～地域づくりワーキンググループ 参加者の感想～

「綾町・神楽坂まちづくり交流会に参加して」

どのようなことがきっかけで、どのような人たちが中心になって動き始めたのか。そして、その動きがどういう形と経過を経て継続しているのか。継続した取り組みの結果、どんな現象が現れてきたか、等々、大変勉強になった。都市部と綾町との違いはあるものの、地域づくりの視点は共通することがあり、大変参考になった。

「森と都市の交流開発」研究会に参加して

綾で国際会議をぜひ開いてくださいと言われたのが印象的でした。綾の価値をすごく高く評価してくださって嬉しかった。今、綾から発信できるメッセージはたくさんあると思う。綾はかなり恵まれた現状にあるので、未来にむけて、人と森が仲良くやっていける道を伝えていきたい。

綾町上畑 人と自然のふれあいマップ体験ツアー 2月28日(日)

綾町上畑自治公民館館長 小西俊一



綾町上畑地区は照葉樹林に一番近い集落であり、郷土芸能俵踊りを継承し、高年者を敬い、壮年、婦人部は自治公民館活動を担い、子ども会は緑の少年団活動を活発に行い、地区民全員が上畑地区を誇りに思う元気いっぱいの集落です。また、特徴としては、高年者から子ども達までお互いを呼び合う時に、名字では呼ばず名前呼び合う習慣があり、何の違和感も無く継続されています。昨年、(財)日本自然保護協会のご協力いただき一年間の聞き取り調査を行い「綾町上畑人と自然のふれあいマップ」を作成しました。先人たちが守り残してくれた照葉樹林から今もなお滾々と湧き出る湧水のように、親から子、子から孫へと代々語り継がれてきた小さな文化がマップになりました。一つの家族のような私たちの上畑地区を歩いてみませんか。そして出会ったらずひ声をかけてください。(こにししゅんいち・綾町)

私達も参加しました！！ 上畑ツアーに、たくさんの方にご参加いただきました。
全てお伝え出来ないのが残念ですが、感想を一部ご紹介します！



上畑に伝わる民謡を披露

- ★ 一地域の上畑だが、map を作って案内説明させると視点がぐんと違ってきました。季節もよく、行く道みちに椿の花が咲いて落ちて印象に残る一日となります。人生！また新しい人と知り合うことは楽しいです。
- ★ 癒されました。ソバもうまかったです。館長さんの「綾町は一つの家族」とは素敵ですね。
- ★ 軍護神社にあった神仏習合式の神様が非常に珍しかった。また地元の方々が手入れを欠かさずされていることが良く伝わってきました。地域に対して愛着を持っておられるのだと感じました。

★ 田んぼの中の道をいっぱい歩きました。干してある大根をかじりました。しわしわで食べられるの？と思ったけど、みんな食べていたので僕も食べてみました。不思議な味がしました。大根が逆さまになっていたのにはびっくりしました。蝶々を追っかけたり、おたまじゃくしを見たりしました。「しゃべる石」は、何も聞こえなかったけど夜、誰もいなくなったらしゃべるのかなあと思いました。楽しかったです。



大根の深い味と甘みにびっくり！



上畑公民館でのふるまい

★ プロジェクトとあわせて綾の町が活性化している様で、上畑の活動は素晴らしいと思いました。生活の中に宝を感じる事が宝物だと思いました

大変多くの方に喜んでいただけた上畑ツアーでした！！
季節を変えて、また上畑ツアーを実現させたいと思っていますので、乞うご期待！！

お知らせ

「国際照葉樹林サミット」 延期について

5月22、23日開催予定の「国際照葉樹林サミット」は、宮崎県内での口蹄疫発生による非常事態宣言を受けて、延期することとなりました。楽しみにされていた皆様、ご協力いただいた皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。

参加申し込み人数 ○22日(土) 講演 344名 ○23日(日) 現地見学会 163名

今後は次回開催へ向けて努力いたします。2011年春の開催を予定しております。日程が確定しましたら、ご案内いたします。

延期決定の日(5月18日)には、海外からの講師の方々はすでに来日されていまして、21日の研究フォーラムのみ、綾町民と関係者を中心に開催しました。上畑公民館の方々に温かくおもてなしをいただき、ゲストの皆様にも喜んでいただきました！ありがとうございました！

△▼△▼△▼△▼△▼△▼ ▼△▼△▼△▼△▼△▼△

事務局だより

◆「てるはの森の会」関連行事

- 2月 20日(土) 第7回ボランティア復元作業
- 20日(土) げんだぼの森 植林作業
- 28日(日) 上畑ふれあいマップ体験ツアー
- 3月 1日(月) 文化館協働委員会
- 4日(木) 地域づくりWG
- 10日(水) 連絡調整会議/サミット実行委員会
- 21日(日) 郷田實没後10年記念シンポジウム
- 9日(火) 照葉樹林文化館改装工事
- 4月 3日(土) 照葉樹林文化館 新装オープン
- 15日(木) 連絡調整会議/サミット実行委員会
- 16日(金) 市民ボランティア林床調査
- 5月 8日(土) 県有林遊歩道整備事業
- 10日(月) 連絡調整会議/サミット実行委員会
- 18日(火) 国際照葉樹林サミット延期決定
- 21日(金) 照葉樹林研究フォーラム
- 22日(土) 国際照葉樹林サミット参加者会議
- 6月 8日(火) 綾町生涯学習
「綾の照葉樹林(自然)を学ぶ」
- 10日(水) 地域づくりWG
- 14日(月) げんだぼの森草刈り

◆「照葉樹林文化館」改装オープン♪

4月3日(土)にリニューアルオープンしました！一昨年度に改装計画を市民目線で提言し、昨年度に綾町と宮崎県から助成してもらい、改装を実施致しました。吊橋の手前に案内看板を立て、館内には巨大パネルを使った写真展示をつくりました。文化館まではかわいい小動物の足跡がご案内いたします♪まだ見られてない方は、ぜひお越し下さい！



会員募集中！

「てるはの森の会」では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しております。

年会費

- 個人サポート会員 2000円
- 家族サポート会員 3000円
- 団体サポート会員 5000円
- 法人サポート会員 10000円

会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年4回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

協賛企業



オーデマ・ピザ財団
環境教育推進財団(オーデマ・ピザ財団)の
設立10周年を記念し、日本で初めて支援
協賛してこの誌面に掲載させていただきます。



◆綾の照葉大吊橋、改修工事をします

今秋から吊橋の改修工事に着手します。期間中は渡れません。詳しくは「綾町役場産業観光課」までお問い合わせ下さい。

電話 0985-77-3464

◆事務局より

事務局に新メンバーが加わりました！

「4月から事務局で働いている、下村ゆかりです。色んなことを身につけ、みなさんのサポートができるよう頑張っていきたいと思えます。よろしくお祈りします。山が好きなので、綾の森の魅力を教えて下さい！」